

感染症の登園基準

※保育所は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発生や流行をできるだけ防ぐことが重要です。

感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復が集団での保育所生活可能な状態になってからの登園であるようご配慮ください。 坂田保育所

	病名	潜伏期間	感染可能期間	感染経路	主な症状と経路	免疫	登園基準	医師の診断書	保護者の登園届
1	インフルエンザ	1～3日	感染後約10日間	咳、くしゃみ等による飛沫、接触感染	高熱、咳、頭痛、咽頭痛、関節痛	無	発症後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまで		必要
2	ウイルス性胃腸炎(ノロ、ロタ、等)	4～5日		経口(吐物、便)	発熱、下痢、嘔吐	無	嘔吐、下痢などの症状が治まり普通の食事がとれること		必要
3	マイコプラズマ肺炎(うつる肺炎)	10日～24日		咳、くしゃみ等による飛沫、接触	咳、発熱、呼吸困難(重症の場合)		発熱や激しい咳が治まっていること		必要
4	溶連菌感染症	2～5日	潜伏期後半～発症後約7日	飛沫、接触	発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、莓舌、頸部リンパ節炎、全身に発疹	無	抗菌薬内服後24～48時間経過していること		必要
5	帯状疱疹	水泡を形状している間	水泡を形成している間	接触感染	体の片側に痛みの強い赤い発疹が帯状に出る。発疹は、水痘と同じように変化していく。		すべての発疹が、かさぶたになった時から		必要
6	RSウイルス感染症	2～8日	呼吸症状のある間	飛沫、接触	軽い鼻風邪から始まり、咳が出てゼーゼーと息をするようになる。		呼吸症状が消失し、全身状態が良いこと		必要
7	突発性発疹	5～14日	型が2つありそれぞれにかかることがある	飛沫、接触、経口	生後初めての発熱で、突然38度以上の熱が3～7日続くが元気で食欲もある。熱が下がると全身に鮮紅色の発疹が出るが、2～3日後自然に消える		解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと		必要
8	ヒトメタニューモウイルス	4～5日	呼吸症状のある期間	飛沫、接触感染	鼻水、咳、38.5度以上の高熱		呼吸器症状が消息し、全身状態が良いこと		必要
9	新型コロナウイルス感染症	2日～7日	発症2日前～発症後10日間	飛沫(せき・くしゃみ)	発熱、のどの痛み、咳、鼻水、頭痛	無	発症後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過。		必要
10	流行性角結膜炎(はやり目)	4～5日	発症後約2週間	目やに接触(プール、手指、タオル)	眼がゴロゴロして痛痒い。眼の充血、目やに、涙目、瞼の浮腫	無	主要症状が消失したときから	必要	
11	咽頭結膜炎(アデノウイルス・プール熱)	5～6日	潜伏期後半～発症後約5日	接触、経口、飛沫	高熱、咽頭痛、目やに、眼の充血、首のリンパ腺が腫れる。(咽頭炎、結膜炎の合併症)	無	解熱し主要症状が消失して2日を経過した時から	必要	
12	腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26、O111等)	4～7日	発症後約4日～1週間	飲食物からの経口感染	発熱、倦怠感、下痢、腹痛、鮮血便		症状が始まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間を空けて連続2回の検便によって菌陰性が確認されたもの	必要	
13	百日咳	6～10日	感染後約3週間	空気感染	1～2週間にわたり、咳、鼻水、くしゃみ、続いて特有の咳(コンコン、ヒューヒュー)が2～3ヶ月続く	終生	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗生物質製剤による治療が終了するまで	必要	
14	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	12～26日	特有の症状を示す7日前から、その後9日	唾液による飛沫	発熱(出ない場合もある)耳の下、顎の下が腫れる。口を開けたり、食べたりすると痛む。	終生	耳下腺、顎下線又は舌下線の腫脹が発現した後、5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	必要	
15	麻疹(はしか)	10～12日	発疹出現の前後4～5日	咳、くしゃみ等による飛沫	咳、くしゃみ、鼻水、目やにで始まり、続いて発熱。一旦解熱し、更に発熱と同時に発疹。口の中にコプリック班	終生	解熱後3日を経過し、全身状態が良好であること	必要	
16	風疹(三日はしか)	2～3週間	発疹出現の前後7日	唾液による飛沫	軽い発熱。同時に細かい発疹が全身に現れる。首、後頭部、耳後リンパが腫れる。3～4日で発疹が消える。	終生	発疹が消失したときから	必要	
17	水痘(水ぼうそう)	2～3週間	水泡出現後2～6日	唾液による飛沫、接触	発熱(出ない場合もある)周りに赤みのある丘疹が3～4日で次々に水泡になり、2～3日がかさぶたになる。かゆみが強い。	終生	すべての発疹が、かさぶたになってから	必要	
18	結核	半年～2年		空気感染、接触、経口	初期は微熱、咳、たんが出る等、風邪と同じような症状		感染の恐れがなくなってから	必要	
19	急性出結膜性結炎(アポ口熱)	1～2日	発症後4日	接触感染	流涙、結膜充血、まぶたの浮腫、目やに		医師により感染のおそれがないと認められた時から	必要	

